

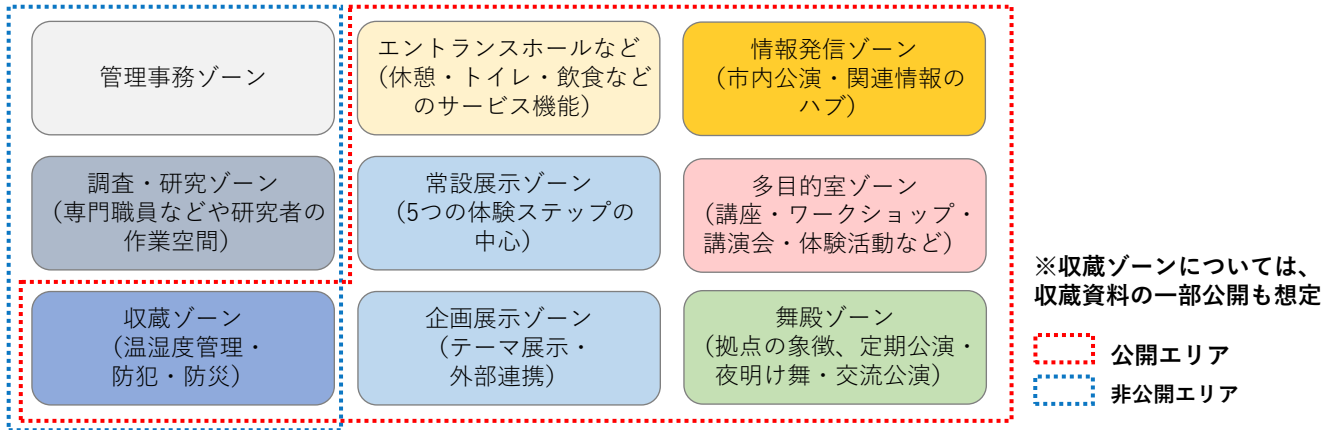
3. 拠点施設の構成及び管理運営方針

【拠点施設の位置づけ】

この拠点は、「石見神楽のすべてがわかり、観て感じることができる、浜田市民が誇れる拠点」として、より多くの市民や県内外からの来訪者が集い、石見神楽を身近に感じ、理解を深め、誇りを育み、文化を後世に伝承する場所となることが重要です。

こうした考えのもと、検討委員会では、郷土資料館その他の文化施設などとの複合施設とはせず、石見神楽に特化した拠点施設として整備することが望ましいと整理しました。

【9つのゾーン】



【管理運営方針】

基本方針：「後継者育成」や「市民の誇りの醸成」を最重要視しつつ、観光振興や地域経済の活性化も考慮した持続可能な運営を目指します。

運営方式：施設の公共性を維持しつつ、民間事業者のノウハウを活用する「官民共同型」による運営を基本とします。施設は浜田市が所有し、指定管理・業務委託・コンソーシアム形式などを検討します。

4. 今後の展望

【石見地域における石見神楽と浜田市の役割】

浜田市は「石見神楽を創り出したまち」として、石見神楽が伝承されている各地域の中心としての役割を担うことが期待されます。本拠点の機能が十分に活用されることにより、石見神楽の次世代継承と、浜田市及び広域圏への観光誘客につながります。

【文化財指定などに向けた取組】

浜田市における石見神楽に関する文化財指定は、現在、島根県指定の「井野神楽」「有福神楽」や浜田市指定の「紙本墨書神楽台本」「石見神楽蛇胴製作技術」「神楽木彫面25点」があります。今後、価値の高い石見神楽関連文化財の指定を進め、ものづくり技術や舞の文化財指定、意匠・商標・特許・著作権などによる保護を目指します。

【市内各地域・施設との連携（フィールドミュージアム）】

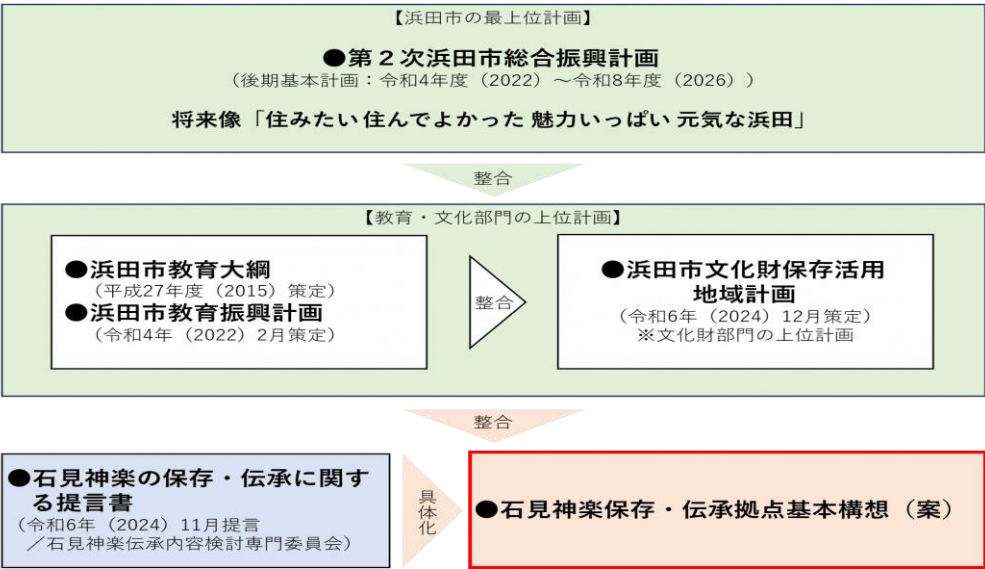
地域で保存・伝承するものと拠点施設で保存・伝承するものを整理した上で、市内に散在する石見神楽関連施設・資源と連携する仕組みの構築が必要であるとの意見が検討委員会でありました。拠点施設に人が集まるだけでなく、各地域の施設・資源へと拡散していく仕組みを構築します。地域との連携体制づくりやハード・ソフト対策を講じ、市全体で「石見神楽を創り出したまち浜田」を体感できる地域づくりを図る必要があります。

1. 基本構想策定の趣旨

【本基本構想の位置づけ】

本構想は、石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会の議論に基づき、石見神楽を将来にわたって継承するための拠点のあるべき姿を基本構想（案）として整理したものです。

「第2次浜田市総合振興計画後期基本計画」「浜田市教育振興計画」の基本方針に基づくとともに、「浜田市文化財保存活用地域計画」などの関連計画との整合を図っています。



【浜田市における石見神楽の位置づけ】

石見神楽は浜田市が誇る伝統芸能であり、市内には50以上の石見神楽団体が存在します。また、日本遺産「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」の構成文化財にもなっています。

明治以降、改正神楽（八調子神楽）や校定石見神楽台本などの「石見神楽文化」が浜田で花開き、石見神楽面・石見神楽蛇胴・石見神楽衣裳・石見神楽笛・石見神楽花火などの「ものづくり」が生まれ、様々な地域に伝わりました。

現在、これら浜田が生み出した石見神楽の文化をひとつも取り入れていない石見神楽はないことから、浜田だけが石見神楽を継承する地域のなかで唯一「石見神楽を創り出したまち」ということができます。

【現状と課題及び提言】

「石見神楽の保存・伝承に関する提言書」（令和6年11月）では、(1)祭礼行事の簡素化などに伴う奉納神楽・夜明け舞の減少、担い手不足、資金減少、(2)石見神楽関連産業やものづくり技術の後継者不足と模倣品の流通、(3)「石見神楽を創り出したまち浜田」の情報発信不足と学べる場所の不在、(4)石見神楽用具や関連資料の散逸と調査研究の不足、(5)行政における専門職員の未配置、を課題として整理されました。その上で、今後の取組の方向性として、(1)石見神楽団体（舞、舞い手、楽人）の保存・伝承、(2)石見神楽関連産業、ものづくり技術の保存・継承、(3)「石見神楽を創り出したまち浜田」としての情報発信、(4)行政における調査研究、(5)石見神楽の保存・伝承を担う拠点施設、について提言されています。



2. 保存・伝承拠点のあり方

【保存・伝承拠点のビジョン・コンセプト（目指す姿）】

一石見神楽のすべてがわかり、観て感じることができる、
浜田市民が誇れる拠点－

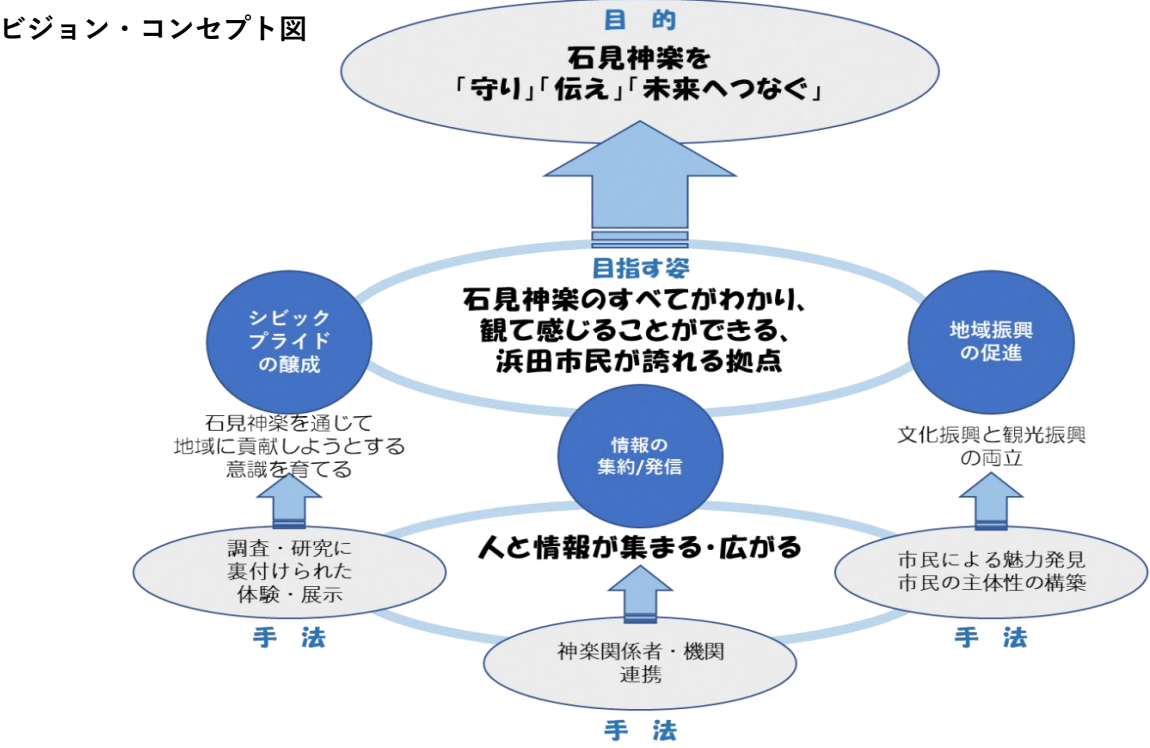
拠点の目的は、浜田の宝である石見神楽を「守り」「伝え」「未来へつなぐ」ことです。

「伝統的な石見神楽の舞の文化」や石見神楽団体・石見神楽関連産業・ものづくり技術を後世に伝承し、市民が身近に親しみやすい拠点とし、ここに来れば石見神楽のすべてがわかり、石見神楽のすべてを観ることができ、市民の誇りとして内外に紹介できる拠点をつくります。

専門職員など（石見神楽の専門的な知識を持つ職員及び学芸員）による調査・研究を基にした体験・学習プログラムや展示などを通じ、市民の正しい理解と誇りを醸成します。

市内の神楽団体・職人・観光関係者・学校・行政などが連携し、「情報のハブ」としての機能も担います。

第一のターゲットは浜田市民とし、市民が石見神楽に誇りを持つことで、観光誘客にもつながり、文化振興と観光振興が一体となった「市民による魅力発信」がここから始まります。



【保存・伝承拠点の7つのミッション（使命・意義）】

用具・資料の
収集・保存

調査・研究

後継者の
育成・確保

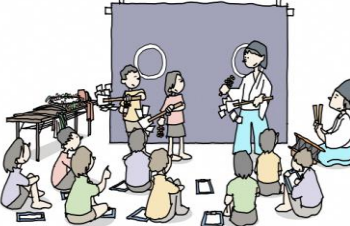
舞（保持演目）や
文化、ものづくり
技術の伝承

市民の誇りの醸成

情報のハブ

魅力の発信

【保存・伝承拠点に必要な5つの機能と活用の方向】

機能	活用の方向
収集・保存機能	- 面・蛇胴・衣裳などの石見神楽用具や、歴史的な図書・文献・写真・映像・音声などの資料を専門的視点で選定し、適切な環境で保存・管理を行います。 - 市内に存在する用具や資料の現状を悉皆調査し、全体像を把握した上で、本拠点で保存すべき資料を選定・収集します。 - 資料の劣化を防ぐため、温湿度管理のとれた収蔵庫を整備します。また、来訪者への公開もできるような収蔵形態や収蔵庫を見学できる取組も検討します。  神楽面や衣裳などの用具の収蔵
調査・研究機能	- 専門職員などが中心となり、石見神楽の歴史的背景・演目構成・地域ごとの特色・用具の製作技術などの継続的な調査・研究を実施します。 - 大学・研究機関と連携し研究を深め、成果を広く情報発信するとともに、全国の神楽との比較研究を通じて石見神楽の特色を整理し、その価値をより明確に伝えていきます。  用具などの調査  研究成果の公表
展示機能	- 常設展示と企画展示を組み合わせ、「受け手からつなぎ手へ」をコンセプトに、「見る」「触れる・感じる」「知る」「やってみる」「考える」の5ステップを通して体験できる構成とします。 - 展示内容は小学校高学年程度が理解できる表現を基本とし、多言語対応・障がい者配慮・デジタル・AI活用を検討します。  太鼓をたたいたり、神楽面をつけてみたりなどの体験ができる  神楽に関わる人々からのメッセージを聞く
教育・普及機能	- 学校のふるさと郷育での積極的な活用、専門職員などによる出前講座や来館プログラムを実施します。 - 子どもから大人までの体系的な学習プログラム、市民ガイド養成、市内情報の集約・発信により、拠点施設だけでなく市内各地へ人々が足を運びきっかけを創出します。  ふるさと郷育（学校出前講座）
交流機能	- 夜明け舞の演舞も可能な舞殿を整備し、舞殿を核として舞の文化継承・団体間交流・合同公演・体験イベントを実施します。 - 多目的室を整備し、各種会議・講座、体験イベント、ワークショップ、学習・創作活動などの開催に柔軟に活用します。  定期講演